

令和6年度  
川越市上下水道ビジョン進行管理  
事業評価

川越市上下水道局

## 【評価基準】

### (1) 具体的取組・評価指標の評価基準と配点

#### 具体的取組

評価基準は以下の3段階評価とする。

	評価
目標を超えた取組を行った	s
目標どおりに取組を行った	a
目標どおりに取組が進まなかった	b

#### 評価指標

評価基準は以下の3段階評価とする。

	評価
目標を超えて達成した	◎
目標を達成した	○
目標を達成しなかった	×

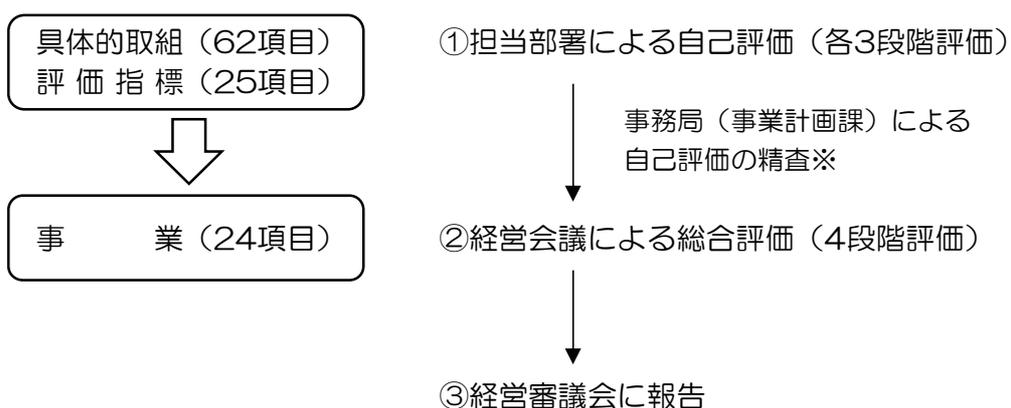
### (2) 総合評価の評価基準と配点

#### 総合評価

評価基準は以下の4段階評価とする。

	評価
目標を超えて事業を進めている	S
目標どおりに事業を進めている	A
事業を進めているが、目標を下回っている	B
目標どおりに事業が進んでいない	C

## 【評価の流れ】



※担当部署による自己評価結果が低い事項については、事務局（事業計画課）が担当課に個別ヒアリングを行い、そこで評価理由の詳細を確認し、改善策の提案等を行います。このほか、総合評価の確定後には、当該年度事業の進捗状況の確認及び目標達成に向けて、関係課へ適正な進捗管理を行います。

# 令和6年度 川越市上下水道ビジョン事業評価

S：目標を超えて事業を進めている

A：目標どおりに事業を進めている

B：事業を進めているが、目標を下回っている

C：目標どおりに事業が進んでいない

## 【総合評価一覧表】

施策方針	基本施策	事業	シート	総合評価 (R2)	総合評価 (R3)	総合評価 (R4)	総合評価 (R5)	総合評価 (R6)
安全	(1)水質管理	1) 水質管理体制の強化	1	A	A	A	A	A
		2) 水安全計画の運用	2	A	A	A	A	A
		3) 小規模貯水槽水道管理の指導強化	3	A	A	A	A	A
	(2)水源の確保	1) 自己水源（地下水）と泉水の活用	4	S	A	B	B	B
	(3)浸水の防除	1) 浸水対策	5	A	A	A	B	B
循環	(1)環境に配慮した事業の推進	1) 水循環への貢献	6	B	B	B	B	B
		2) 各種の環境対策	7	B	B	A	S	A
		3) 省エネルギー対策	8	A	A	A	A	A
	(2)公衆衛生の向上・環境保全	1) 水質の保全と管理	9	B	B	B	B	A
		2) 生活排水処理の適正化	10	A	A	A	A	A
強靱	(1)施設の維持管理	1) 管路施設の維持管理	11	A	A	A	B	B
		2) 施設・設備の維持管理	12	S	A	S	S	A
	(2)地震に対する備え	1) 地震対策	13	S	S	S	S	A
		2) 震災時の対応	14	A	A	A	A	A
持続	(1)業務運営	1) 官民連携	15	A	A	A	A	A
		2) 広域連携	16	C	A	A	A	B
		3) 新たな技術の活用	17	S	S	S	S	S
		4) 公有地や施設・設備の効率的利活用	18	A	B	B	A	A
		5) 人材の育成と組織力の強化	19	S	A	A	A	A
	(2)経営基盤の強化	1) アセットマネジメント	20	A	A	A	A	A
		2) 経営戦略	21	A	A	A	A	A
		3) 不明水対策	22	B	B	A	A	B
	(3)お客様とのコミュニケーションの推進	1) 積極的な情報伝達	23	C	B	B	A	A
		2) お客様の意見・要望の把握と活用	24	A	A	A	A	A

## 【結果集計表】

施策方針	評価 (R2)				評価 (R3)				評価 (R4)				評価 (R5)			
	S	A	B	C	S	A	B	C	S	A	B	C	S	A	B	C
安全	1	4	0	0	0	5	0	0	0	4	1	0	0	3	2	0
循環	0	2	3	0	0	2	3	0	0	3	2	0	1	2	2	0
強靱	2	2	0	0	1	3	0	0	2	2	0	0	2	1	1	0
持続	2	5	1	2	1	6	3	0	1	7	2	0	1	9	0	0
合計	5	13	4	2	2	16	6	0	3	16	5	0	4	15	5	0

施策方針	評価 (R6)			
	S	A	B	C
安全	0	3	2	0
循環	0	4	1	0
強靱	0	3	1	0
持続	1	7	2	0
合計	1	17	6	0

## 【総合評価結果の講評】

「安全」については、目標を下回る事業がありました。引き続き水運用の効率化を目指して継続的に取り組む必要があります。また近年の気候変動に伴い、雨の降り方が局地的化しているため、浸水被害の軽減に向けて着実に事業を進めていくことが重要です。

「循環」については、概ね順調に事業が進んでいます。上下水道事業における水循環への貢献や脱炭素社会実現に向けた環境への配慮は近年の大きな課題であると強く認識し、事業運営に取り組む必要があります。

「強靱」については、概ね順調に事業が進んでいます。管路施設の老朽化に伴う事故等を未然に防ぐためにも、適切な維持管理を行う必要があります。また自然災害の激甚化が進むなか、今後も災害に強くたくましい上下水道に向けて継続的に取り組むことが重要です。

「持続」については、目標を下回る事業がありました。今後更なる事業運営の効率化が迫られるなか、持続可能な上下水道を実現するため、引き続き事業の基盤強化に努める必要があります。

評価事業

上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
安全	(1) 水質管理	1) 水質管理体制の強化	A

具体的取組

① 水道法で定められた水質検査を適正に実施します。	a
② 独自の検査項目に基づき、水質検査を実施します。	s
③ 県水の残留塩素濃度の低減化について、埼玉県企業局と協議します。	a
④ 塩素注入設備の改修により、配水残留塩素濃度の平準化を図ります。	a

取組実績

① 水道法で定められた水質検査を、末端給水栓において毎月実施しました。また、臨時の検査にも対応しました。
② 水質検査計画に基づき、自主的な水質検査を毎月実施しました。また、有機フッ素化合物であるPFOS及びPFOAについて、地下水の水質検査を臨時で行い、暫定目標値未満であることを報告しました。
③ 県水の残留塩素濃度の低減化について、埼玉県企業局と協議を行いました。
④ 各浄水場の次亜塩素設備の年次点検を行い、維持管理に努めました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
平均残留塩素濃度 (末端) (mg / L)	0.47	0.50	0.50	0.45	0.1以上 0.44以下	0.48	↘	×	指定の給水栓で毎日測定されている残留塩素濃度の年間平均値
	(計算式) 残留塩素濃度合計 / 残留塩素測定回数								

評価理由

水の安全の根幹を成す水質検査については適正に行っています。平均残留塩素濃度の低減化については、県と継続して協議を行っていますが、大久保浄水場に近しい本市では相変わらず残留塩素濃度が高い状態が続いています。その対策として、各浄水場において次亜塩素酸ナトリウムの注入率を調整し、残留塩素濃度の低減化に努めています。結果は0.48mg/Lと目標値を上回りましたが、給水栓での残留塩素濃度が市の管理目標とする0.25~0.70mg/Lの範囲内で運用できているため、評価を「A」としました（指標で定めている目標値は、厚生労働省がまとめた「おいしい水の要件」を基準としています）。
--

今後の方向性

安全でおいしい水の提供に繋げるため、平均残留塩素濃度の低減化について県企業局と継続して協議するとともに、本市でできる対策として、計測値を見ながら引き続き各浄水場における次亜塩素酸ナトリウムの注入率の調整による低減化に努めます。また、有機フッ素化合物について、今後も関係課及び県と連携し、調査・対応を進めていきます。
---

評価事業

上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
安全	(1) 水質管理	2) 水安全計画の運用	A

具体的取組

①「水安全計画」を効果的に運用するため、水安全計画運用会議を年に2回以上開催します。	a
--	---

取組実績

① 局内で組織する水安全計画運用会議を3回実施し、水安全計画の運用方法について確認と検証を行いました。また、濁水発生に伴い作成した対応措置記録簿について報告を行いました。年度末には妥当性確認チェックリストを用いて水安全計画の妥当性について検証を行いました。
--

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組を着実にしているため、評価を「A」としました。
------------------------------

今後の方向性

引き続き水安全計画運用会議を年に2回以上開催し、通常業務の中で発生するリスクや新しい技術・取組等について局内で共有し、連携して取り組むなど「水安全計画」を効果的に運用していきます。
--

評価事業

給水サービス課

施策方針	基本施策	事業	評価
安全	(1) 水質管理	3) 小規模貯水槽水道管理の指導強化	A

具体的取組

① 小規模貯水槽水道設置者等に、定期の清掃・点検について個別通知します。	a
② 貯水槽水道の適正な管理に係る情報の内容を充実させます。	a
③ 保健所と連携し、貯水槽水道管理の指導に係る事業を推進します。	a
④ 貯水槽水道の設置者及び使用者の意識が向上する方法を検討、実施します。	a

取組実績

① 令和6年度調査票における施設の状況、過年度の文書到達状況を精査した上で、約900件の通知文書を発送しました。
② 貯水槽設置者等から返送された調査票の内容を集計し、受水槽台帳のデータを更新しました。
③ 保健所と通知文書の内容について協議し、簡易専用水道の情報提供も同一文書に掲載しました。
④ 他市のマニュアル等を参考にホームページの掲載内容を確認するとともに、更新した清掃業登録業者一覧を通知文書に掲載しました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
点検・検査の受検率 (%)	3.6	4.0	4.6	3.5	3.2	4.5	↗	○	小規模貯水槽水道の点検・検査の受検率
	(計算式) 貯水槽水道点検・検査件数 / 貯水槽水道数 × 100								

評価理由

個別通知の実施等、点検・検査の受検率向上のための取組について計画どおり着実に実行しており、指標についても目標値を上回ったことから、評価を「A」としました。
---

今後の方向性

引き続き、全ての小規模貯水槽水道設置者に対する個別通知を実施し、小規模貯水槽水道の管理の徹底を促すとともに、3階直結給水や増圧給水制度への切り替え検討についても案内を行います。 保健所との連携についても、引き続き協議を行っていきます。
--

評価事業

事業計画課・上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
安全	(2) 水源の確保	1) 自己水源（地下水）と県水の活用	B

具体的取組

① 地下水の保全・活用に努めます。	a
② 「深井戸維持管理計画」を策定します。	a
③ 関係機関と協議し、効率的に県水を受水します。	a

取組実績

① 全水源の水位測定やポンプ電流測定等を行ったほか、深井戸2本の機能維持修繕を行い、水源の保全・活用に努めました。
② 令和15年度までの計画を策定したことから、運用を行っています。
③ 地下水を活用し適量の受水に努めましたが、計画配水量を下回ったことから県水転換率が計画値を上回りました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
平均自己水源利用量 (m <sup>3</sup> /日)	15,122	14,786	13,961	12,516	15,500	14,295	↗	×	自己水源（地下水）の1日当たりの平均利用量
	(計算式)								

評価の理由

<p>具体的取組を着実に進めており、指標の平均自己水源利用量についても昨年度より増加していますが、目標値を達成できなかったことから評価を「B」としました。自己水比率を高められるよう機場の運転操作を行いました。想定よりも水需要が少なく全体配水量が大きく減ったことが要因です。</p>
--

今後の方向性

<p>計画的に深井戸の機能維持修繕及び取水ポンプの交換を実施し、保全・活用を図ります。水需要の傾向等を更に分析し、今後値上げが予定されている県水についても効率的に受水するとともに、目標どおりの自己水源の利活用ができるよう努めます。</p>
---

評価事業

事業計画課・下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
安全	(3) 浸水の防除	1) 浸水対策	B

具体的取組

① 「川越市雨水管理総合計画」で定めた重点対策地区等を中心に、適切な雨水施設の整備や維持管理を行います。	a
② 浸水や大雨の発生状況を踏まえた「川越市内水ハザードマップ」を適宜見直し、浸水への備えや避難に関する情報を提供することで、市民への注意喚起を行います。	a

取組実績

① 藤原町第一公園に設置した雨水貯留施設については、流入管等の関連施設整備工事を発注しました。また、岸町地区の浸水被害軽減対策の実設計業務を行いました。砂地区の浸水対策については業務委託を発注し、調整池等の整備方針についてまとめました。
② 令和5年度に更新した内水ハザードマップについて、ホームページで公開するとともに、窓口対応等を通してリスク周知に努めました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
重点対策地区の対策済ブロック数(箇所)	0	0	0	0	1	0	↗	×	「川越市雨水管理総合計画」により浸水対策の重点対策地区として指定した区域のうち、雨水施設の整備などの対策を行ったブロック数
※概ね5箇年で1ブロック完了の予定									

評価理由

「川越市雨水管理総合計画」に基づき着実に浸水対策を進めていますが、貯留施設の付帯工事（ポンプ施設等）が次年度以降の完了予定となるため、令和6年度中に指標の目標値を達成できなかったことから評価を「B」としました。
---

今後の方向性

藤原町第一公園内の雨水貯留施設については、令和7年度に流入管等の関連施設の工事が完了します。また、重点対策地区の岸町地区について、浸水被害の軽減に向けた雨水対策工事を行うとともに、砂地区の雨水対策についても検討を進めていく予定です。
--

評価事業

下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
循環	(1) 環境に配慮した事業の推進	1) 水循環への貢献	B

具体的取組

① 私有地における雨水の一時的な流出抑制と有効利用を図るため、浸透施設や貯留施設を設置する費用の一部を補助する制度を継続するとともに、その啓発活動として、市ホームページや広報への掲載内容の充実を図ります。	a
② 他の公共事業や民間の事業と連携しながら、道路に設置してある雨水ますを浸透ますに変更することや新規に設置する場合についても浸透ますの設置を検討します。	a

取組実績

<p>① 「川越市雨水対策施設設置補助金交付要綱」に基づき、浸透施設や貯留施設設置費用の一部補助を行いました。                      令和6年度実績：利用型7基 計7基補助（浸透型は実績なし）                      （参考）令和5年度実績：利用型8基、浸透型4基、計12基補助                      啓発活動として市ホームページ、市広報、上下水道局だより、市役所本庁舎の大型モニターへの掲載のほか、市民センターへのチラシ・ポスターの設置や窓口での下水道への接続相談の際にPRを行いました。また、イベントや雨水誤接合調査にてパンフレットの配布を行いました。</p> <p>② 他の公共事業や民間の事業について、敷地内に雨水の浸透施設を設置するよう指導しました。</p>
---

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
家庭雨水貯留槽及び浸透ます設置数（箇所）	859	901	928	940	970	947	↗	×	「川越市雨水対策施設設置補助金交付要綱」により、雨水の一時的な流出抑制や有効利用を目的に設置した小型貯留槽および浸透ますの設置箇所数

評価理由

<p>具体的取組として例年以上に様々なPR方法を用いて家庭雨水貯留槽及び浸透ますの設置の啓発を行いましたが、指標の目標値は達成できなかったことから、評価を「B」としました。</p>
--

今後の方向性

<p>市広報やホームページへの掲載に加え、親しみのあるポスターの作成や啓発イベント参加者へのパンフレット配布を行うなど、補助制度の周知方法の工夫を図っていきます。</p>
---

評価事業

総務企画課・財務課・水道課・下水道課・上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
循環	(1) 環境に配慮した事業の推進	2) 各種の環境対策	A

具体的取組

① 上下水道局の環境目的に基づき、上下水道事業における環境負荷の低減を図ります。	a
② 上下水道局が管理している公用車について、環境負荷の少ない自動車の導入を推進し、排出ガスの低減を図ります。また、エコドライブの実践に努めます。	a
③ 工事等で発生した建設副産物のリサイクルを推進するとともに、適正に処理します。	a

取組実績

① 上下水道局の環境目的に基づき、昼休みやノー残業デーにおける unnecessaryな照明の消灯やコピー用紙の使用量削減に努めるなどの取組を行いました。
② 新車を購入する際、環境負荷の少ない自動車を購入しました。
③ 発注した工事において、建設副産物のリサイクルを推進し、法律に基づき適正に処理しました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
上下水道局のエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	3,921	3,881	3,674	3,495	3,546以下	3,707	↘	×	上下水道事業において発生する二酸化炭素排出量。浄水場やポンプの運転管理、工事や自動車における電力・燃料消費が主な排出源
上下水道局の自動車によるNOx・PM及びCO <sub>2</sub> 排出量 (Nox:kg、PM:kg、CO <sub>2</sub> :t)	Nox 81.09 PM 1.87 CO <sub>2</sub> 34.84	Nox 76.41 PM 1.79 CO <sub>2</sub> 28.87	Nox 64.80 PM 1.31 CO <sub>2</sub> 29.19	Nox 54.63 PM 0.90 CO <sub>2</sub> 25.88	Nox 75.00以下 PM 1.50以下 CO <sub>2</sub> 30.00以下	Nox 36.66 PM 0.74 CO <sub>2</sub> 21.39	↘	◎	上下水道事業において用いる自動車から発生する環境負荷

評価理由

<p>具体的取組については着実に行っており、指標についても「上下水道局の自動車によるNOx・PM及びCO<sub>2</sub>排出量」は3項目すべてにおいて目標値を達成したことから、評価を「A」としました。</p> <p>指標の「上下水道局のエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量」が目標値及び前年度実績値に届かなかった主な要因は、降雨量の増加によりポンプ場の稼働率が増加したこと及び取水量の増加等により浄水場における電力使用量が増加したことが挙げられます。</p>
---

今後の方向性

<p>「上下水道局のエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量」は天候や配水量等に影響を受ける部分が大いですが、設備更新時における高効率機器の導入や上下水道施設における運転管理の工夫など、局としてできる対策を進めていきます。</p> <p>公用車の管理については、引き続き職員に対してアイドリングストップ・エコドライブの周知徹底を図り、CO<sub>2</sub>の排出抑制に努めます。また、新車の購入・買い替えでは今後も可能な限り環境性能に優れた自動車を導入します。</p> <p>工事等に伴う建設副産物の処理については、引き続き受注者に指導を行います。</p>
---

評価事業		事業計画課・上下水道管理センター	
施策方針	基本施策	事業	評価
循環	(1) 環境に配慮した事業の推進	3) 省エネルギー対策	A

具体的取組

① 上下水道施設における高効率機器の導入など、効果的な省エネルギー対策を推進します。	a
② 配水エネルギーの低減化に効果のある、県水の直送方式の導入可能性を検討します。	a
③ 配水区域のブロック化を実施することで、エネルギー効率の高い自然流下区域の拡大とポンプ圧送区域の縮小による配水エネルギーの低減化を目指します。	a
④ 上下水道管理センターの太陽光発電システムは、引き続き場内利用電力に活用しつつ、他施設への設置について検討します。	a
⑤ 未利用エネルギーとして、下水を熱源とした空調設備等への熱供給や、上下水道管路の落差を利用した小水力・低落差発電の活用可能性について、引き続き検討します。	a

取組実績

① 新宿浄水場の配水ポンプを高効率モーターへ更新する工事を行っています。(令和5~7年度・3箇年継続事業)
② 中福系及び霞系配水区において検討を行いました。条件やリスク管理等から事業推進には至っておりません。
③ ブロック化の検証作業に向けて、局内関係課における共通認識を図り、協議を開始しました。
④ 上下水道管理センターにおいて、5,688kWhの発電がありました。
⑤ マイクロ水力発電の工事が概ね完了し、経済産業省のFIT制度の申請準備も整いました。令和7年4月には発電する見込みとなっています。(水道)

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
配水量1m <sup>3</sup> あたりの消費エネルギー (MJ / m <sup>3</sup> )	1.64	1.66	1.60	1.59	1.62	1.68	↘	×	配水量1m <sup>3</sup> あたりの水道事業すべての施設、事業所で使用したエネルギー量の割合
	(計算式) エネルギー消費量 / 年間配水量								

評価理由

<p>指標については目標値を達成できませんでしたが、具体的取組に掲げた省エネルギー対策について目標どおり取り組んでいることから、評価を「A」としました。</p> <p>消費エネルギーが目標値に届かなかった主な要因は、県水受水量が減ったため取水量を増やしたことで、取水ポンプの稼働時間が増加し、電力使用量が増えたことによるものです。また、中福受水場付近で700mm管の漏水があり、低地に自然流下で配水できなくなったため、新宿浄水場や今福浄水場の稼働時間が大幅に増えたため、本来発生しない電力が発生したことも要因の一つです。</p>
--

今後の方向性

<p>受・浄水場の各種エネルギー使用量については、配水量や天候に左右される面が大きいです。引き続き効率的な稼働に努めます。</p> <p>マイクロ水力発電については、発電施設の適切な維持管理を行い、安定的な再生可能エネルギーを創出することで、環境への貢献に努めます。</p>
---

評価事業		下水道課・上下水道管理センター	
施策方針	基本施策	事業	評価
循環	(2) 公衆衛生の向上・環境保全	1) 水質の保全と管理	A

具体的取組

① 公共下水道に接続している特定事業場等のうち、規制物質を排出する恐れがある規制対象事業場に対して、引き続き立入検査を行います。また、排除基準を超過した事業場に対しては、事業場の規模や過去の違反状況に応じて注意や勧告等を行い、原因や実状を踏まえて効果的な指導を実施します。	a
② 下水道法施行令に基づき、合流式下水道区域からの雨天時排水の水質に対して、引き続きモニタリングを行います。	a

取組実績

① のべ243事業場について立入検査を実施し、このうち22件が排水基準を超過しました。超過事業場については文書指導を行い、改善措置完了報告書または改善措置計画書により、超過原因や改善内容及び改善後の分析結果を確認しました。
② 水質調査業務委託を実施し、水質について確認しました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組を着実にしているため、評価を「A」としました。
------------------------------

今後の方向性

規制対象事業場については、年度初回の立入検査前に指導・啓発の通知を送付し、維持管理の徹底を促します。また、立入時及び届出時等に指導・啓発を実施し、年末には届出事業場に事故防止・維持管理徹底の通知を送付します。今後も啓発通知の発送等により、日頃の維持管理徹底を促していきます。
---

評価事業

事業計画課・下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
循環	(2) 公衆衛生の向上・環境保全	2) 生活排水処理の適正化	A

具体的取組

① 「生活排水処理基本計画書」に基づき、近年の市街化調整区域の接続率の低下を考慮し、費用対効果を踏まえて引き続き効率的な下水道整備に努めます。	a
② 下水道接続率向上のため、下水道整備予定区域の市民に対して、下水道整備に関わる意向調査を行います。	a
③ すでに下水道整備を行った区域の未接続者に対して、積極的に戸別訪問を行い、下水道の接続義務等について指導することにより、継続的に下水道への接続を促します。	a
④ 広報や市ホームページを活用したPR活動をさらに充実させ、市民へ下水道への接続の意識向上に向けた情報提供を行います。	a

取組実績

① 下水道整備予定区域において、汚水管布設工事を延長3,756m整備しました。
② 下水道整備工事範囲内の関係地権者に、下水接続の意向及び取出し位置の確認を行いました。
③ 未接続家屋のうち、令和3～5年度に調査した2,411件について、再調査を実施し、未接続の理由を確認するとともに水洗化指導を行いました。本調査における接続件数は618件で、過年度の調査により宅内を改造した家屋もありました。
④ 広報や市ホームページ、川越市民のしおりに掲載するとともに、公共下水道の供用開始のお知らせを配付する際に市民への情報提供を行いました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
人口普及率 (%)	86.8	87.1	87.1	87.2	87.2	87.6	↗	○	行政人口に対して、下水道により処理することが可能な人口の割合
	(計算式) 下水道処理可能人口 / 行政人口 × 100								
下水道接続率 (%)	98.1	98.1	98.1	98.2	99.2	98.2	↗	×	下水道により処理することが可能な世帯に対して、下水道を利用している世帯の割合
	(計算式) 下水道接続世帯数 / 下水道処理可能世帯数 × 100								

評価理由

指標の「下水道接続率」については目標値を下回りましたが、「人口普及率」については目標値を上回ったことや、具体的取組を着実にしていることから、評価を「A」としました。
--

今後の方向性

下水道接続率向上のため、引き続き水洗化調査を実施し、未接続者に対する水洗化指導を行います。農業集落排水、合併処理浄化槽と併せた汚水整備達成率は97.8%と概成していますが、整備拡張に係る国庫補助事業が令和8年度までとなっていることから、事業計画区域で定めた処理区について、速やかな整備完了を目指します。また、全体計画の変更により公共下水道から合併処理浄化槽へ処理区分の変更となった地区では、排水先確保について関係部署との協議・調整を図ります。
---

評価事業 事業計画課・水道課・下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
強靱	(1) 施設の維持管理	1) 管路施設の維持管理	B

具体的取組

① 配水管の洗浄作業を実施します。	a
② 配水管の漏水調査を実施します。	a
③ 弁栓類・弁室の点検を実施し、計画的に修繕します。	a
④ 「老朽管更新計画」(水道事業)に基づき適切に更新を実施します。	a
⑤ 「川越市下水道ストックマネジメント計画」の「点検・調査計画」に基づいて、管路施設の定期的な点検・調査を行い、必要とされる箇所は修繕・改築します。	a
⑥ 管路施設の諸元や維持管理に関する情報をGIS(地理情報システム)等の電子データによる台帳として整理し、膨大な情報の把握や適切な管理を継続します。	a

取組実績

① 配水管洗浄作業計画のとおり72ブロックの洗浄作業を行い、夾雑物の除去・水質の改善を行いました。
② 調査戸数57,455戸⇒116件の漏水を発見し、修繕を実施しました。 (参考) 令和5年度実績：調査戸数29,663戸⇒99件を漏水修繕
③ 消火栓及び空気弁10箇所、バタフライ弁10箇所について、修繕を実施しました。
④ 配水(補助)管の耐震化工事を24件、延長にして9,170m実施しました。
⑤ スtockマネジメント計画を見直し、効率化を図りました。また、計画に基づく点検・調査(管きょ延長28,195m、マンホール目視553箇所)を行い、修繕改築箇所を整理しました。
⑥ 工事等により更新した水道施設のデータを整理し、更新を行いました。(水道) 工事等により更新した下水道施設のデータ及び誤謬や表記漏れがあった箇所の整理、修正を行いました。(下水道)

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
有収率(水道)(%)	94.0	94.7	94.2	95.0	94.8	94.8	↗	○	水道の総配水量に対して、料金の徴収対象となった水量(有収水量)の割合
	(計算式) 年間総有収水量 / 年間総配水量 × 100								
管路の更新率(水道)(%)	0.96	1.40	1.29	1.04	1.13	0.91	↗	×	水道の管路全体の延長に対して、1年の間に更新を行った延長の割合
	(計算式) 当該年度に更新した管路延長 / 管路延長 × 100								
長寿命化管きょ延長(下水道)(km)	33.8	34.2	34.6	34.8	35.7	34.9	↗	×	下水道管路において修繕や改築などの長寿命化対策を行った管路の延長
管路施設の点検・調査延長(下水道)(km:累計)	113.63	123.64	175.34	201.07	241	229.27	↗	×	下水道管路において点検や調査を行った管路の延長

評価理由

<p>管路施設の維持管理のため、具体的取組を着実に進めていますが、指標4項目のうち3項目が目標値を達成できなかったことから、評価を「B」としました。指標の「長寿命化管きょ延長(下水道)」については、ストックマネジメント計画に基づいて令和元年度から点検・調査を開始し、令和6年度は改築工事に向けた詳細設計等を行ったため、更新延長距離には結びついていません。また、「管路の更新率(水道)」「管路施設の点検・調査延長(下水道)」が目標を下回ったことについては、実施予算や要員確保との兼ね合いがあり、更新延長が減少したことが主な要因です。</p>
---

今後の方向性

<p>昨今の物価高騰や労務費の上昇により、計画どおりの更新数量を確保しづらい状況となっておりますが、厳しさを増す財政状況や人員不足の中でも、最優先すべき管路から効率的に事業を進めていきます。適切な維持管理ができるよう経営戦略(令和7年度版)における投資財政計画の実効性に努めます。</p> <p>「管路施設の点検・調査延長(下水道)」については、令和6年度に見直したストックマネジメント計画に従い、点検・調査を行います。また、改築箇所について実施計画業務を行い、改築工事を実施します。</p>
--

評価事業		上下水道管理センター	
施策方針	基本施策	事業	評価
強靱	(1) 施設の維持管理	2) 施設・設備の維持管理	A

具体的取組

① 浄水場やポンプ場等の施設・設備を計画的に更新・修繕します。	a
② 浄水場やポンプ場等の施設・設備台帳を整備し、施設情報を一括管理します。	a

取組実績

① 新宿浄水場の電気設備及び配水ポンプ設備の更新工事を実施しています。(令和5~7年度・3箇年継続事業)(水道) ポンプ更新を6箇所、制御盤更新を2箇所、監視装置更新を7箇所、計装設備更新を12箇所行い計27箇所実施しました。(下水道)
② 施設・設備台帳の運用を開始し、令和6年度に更新した設備等については、内容を更新しました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
設備点検実施率(水道)(%)	87.9	87.1	87.4	87.2	87.0以上	87.3	↗	○	上水道の浄水場やポンプ施設に設置されている設備に対して点検を行った割合
	(計算式) 点検機器数 / 機械・電気・計装機器の合計数 × 100								
設備更新箇所数(下水道) (箇所: 5箇年累計)	37	55	88	111	20	27	↗	○	下水道マンホール形式ポンプ場の主要な設備の更新箇所数

評価理由

<p>具体的取組を着実に実行しており、指標についても2項目ともに目標値を達成したことから、評価を「A」としました。なお、指標の「設備更新箇所数(下水道)」については5箇年ごとに累計目標を定めており、令和6年度は計画の初年度となるため、上記のように表記しています。</p>
---

今後の方向性

<p>水道：引き続き、新宿浄水場の電気設備及び配水ポンプ設備の更新工事を実施します。(令和5~7年度・3箇年継続事業) 下水道：施設の老朽化が進行していることや事故に備え、令和6年度~10年度(5箇年)の累計目標100箇所の達成に向けて、今後も計画に基づき更新を進めていきます。</p>
---

評価事業

事業計画課・水道課・下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
強靱	(2) 地震に対する備え	1) 地震対策	A

具体的取組

① 水道事業の「重要施設配水管耐震化計画」や、下水道事業の「川越市下水道総合地震対策計画」に基づき、防災拠点等への給水・排水に関わる管路を計画的に耐震化します。	a
--	---

取組実績

① 重要施設配水管の耐震化工事を15件、延長にして3,999m実施しました。(水道) 下水道施設の耐震化に繋がる工事を10件、延長にして3,900m実施しました。また、下水処理場直近の管路更生実施設計業務に着手しました。(下水道)
--

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
重要施設配水管耐震化率 (水道) (%)	20.3	21.4	23.1	23.8	23.5	25.0	↗	○	防災拠点や医療施設等に給水を行っている重要施設配水管延長に対する耐震化対策を実施した延長の割合
	(計算式) 耐震化済延長 / 全重要施設配水管延長 × 100								
配水管の耐震化率 (水道) (%)	23.2	24.5	26.1	27.4	27.4	28.4	↗	○	すべての配水管のうち、耐震化対策を実施した割合
	(計算式) 耐震化済延長 / 配水管延長 × 100								
管きょ耐震化率 (下水道) (%)	17.0	18.4	18.6	19.2	19.5	19.7	↗	○	すべての管きょのうち、耐震化対策を実施した割合
	(計算式) 耐震化済延長 / 下水道管延長 × 100								

評価理由

具体的取組を着実に進めており、指標についても3項目ともに目標値を達成したことから、評価を「A」としました。
---

今後の方向性

管路施設の維持管理と同様に、実施予算、要員確保との兼ね合いがあることから、厳しい財政状況のもと今後は更なるコスト縮減が必要となりますが、地震対策は喫緊の課題であり、大規模災害時における断水被害等の低減及び流下機能を確保するため、引き続き管路・管きょの耐震化を計画的に進めていきます。
---

評価事業

総務企画課・事業計画課

施策方針	基本施策	事業	評価
強靱	(2) 地震に対する備え	2) 震災時の対応	A

具体的取組

① 各種危機管理マニュアルを効果的に運用します。	a
② 「業務継続計画（BCP）」の策定・改定や計画に基づく訓練の実施により、災害時対応体制の強化を図ります。	a
③ 災害対応の拠点施設として、上下水道局庁舎の防災機能の強化に努めます。	a
④ 防災拠点への災害用給水タンクなどの設置について検討します。	a
⑤ 避難所や防災拠点におけるマンホールトイレの導入については、汚物を流すための水の確保を含めて設置場所を検討します。	a

取組実績

① マニュアルに則り、給水コンテナを用いた給水訓練、無線通信訓練、SNS発信訓練等を実施しました。
② 水道事業業務継続計画（地震編）に則り防災訓練を実施し、災害時対応体制の強化を図りました。 「業務継続計（BCP）」の改定や資材等の確認のため、現地調査を実施しました。（水道・下水道）
③ 防災機能の維持のため、非常用発電機の点検、動作確認を行いました。
④ 防災拠点への災害用給水タンクの設置について検討を行いました。場所の決定には至りませんでした。効果的な運用に向け引き続き検討を行っていきます。
⑤ マンホールトイレ設置に関する資料収集や防災部署との調整を行いました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
災害対策訓練実施回数 (回 / 年)	1	1	1	1	1以上	1	↗	○	地震などの大規模災害に備えて災害対策訓練を実施した回数

評価理由

具体的取組を着実にっており、指標の「災害対策訓練」についても目標どおり行っていることから、評価を「A」としました。
---

今後の方向性

給水タンクについては、防災危機管理室とも連携を図りながら、上下水道局防災対策検討チーム会議において適正配置について検討を進めます。 マンホールトイレの導入については、引き続き、防災危機管理室と協議を行うと共に、補助金等の活用を含めた検討を行い、市としての方針を共有し、川越市地域防災計画や下水道BCPへの反映を検討します。 国の要請に基づき策定した上下水道耐震化計画により、防災拠点等の重要施設を上下水道一体的に耐震化していきます。
--

評価事業

総務企画課・事業計画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	(1) 業務運営	1) 官民連携	A

具体的取組

① 民間委託等の活用や委託範囲の拡大により効率的な事業運営を図ります。	a
② PPP（官民連携）手法の導入については、適切な連携の形態を検討します。	a

取組実績

①② 官民連携に関する検討専門部会（作業部会）を開催し、現在検討中の案件の課題・進捗状況・今後の方向性について検討を行いました。また、新たにウォーターPPPの導入についての認識の共有・スケジュールの確認等を行いました。（総務企画課） 国の要請に基づき、官民連携手法の導入について検討し、ウォーターPPP導入可能性調査業務委託を発注するため、計画書作成等の準備を進めました。（事業計画課）
--

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組①②ともに着実に行っているため、評価を「A」としました。
-----------------------------------

今後の方向性

引き続き公民連携検討専門部会及び作業部会を開催し、効率的な事業運営についてPPP/PFI手法導入の可否を検討します。本市で予定している下水道事業について、引き続きPPP導入に関する民間提案の受付窓口を設け、検討を進めていきます。
--

評価事業

総務企画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	(1) 業務運営	2) 広域連携	B

具体的取組

① 広域化や共同化の必要性や導入について、引き続き県や近隣事業者との協議を続けます。	s
--	---

取組実績

① 県が主催する水道広域化全体会議に参加したほか、本市を含む県内5事業者で構成する第3ブロックの検討会議を開催し、資機材の共同購入及び指定給水装置工事事業者指定事務に係る申請様式の統一化について、具体的に導入検討を行うことを決定しました。
---

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
広域化検討会議実施回数 (回 / 年)	2	3	3	3	3以上	2	↗	×	広域化や共同化の必要性や導入について、県や近隣事業者も含めた検討会議を実施した回数

評価理由

広域化・共同化については、埼玉県が取組の推進や事業者間の調整の役割を担っており、県が主催する会議を通じて必要事項等が全事業体に周知されています。令和6年度は広域化等に係る県主催の会議が例年より少なく、指標の目標値を達成することはできませんでしたが、第3ブロックの検討会議において着実に成果があったことから評価を「B」としました。
--

今後の方向性

資機材の共同購入や一部事務の共同処理について、近隣事業者と導入に向けた協議・調整を引き続き実施します。また、他事業者の情報収集や先進事例の研究など、実現可能な広域化等に係る取組について検討します。
--

評価事業 事業計画課・給水サービス課・水道課・下水道課・上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	(1) 業務運営	3) 新たな技術の活用	S

具体的取組

① 効果的で効率的な新たな技術の導入を積極的に検討します。	a
-------------------------------	---

取組実績

① 霞ヶ関第二浄水場の泉水受水地点に導入したマイクロ水力発電設備に加え、場内のオープンスペースを活用して太陽光発電設備と蓄電池を設置し、停電対策に活用できないか検討を行いました。(事業計画課・管理センター) 新技術を保有する民間会社にヒアリングを行い、下水道事業への展開について協議を行いました。(事業計画課) 昨年度設置したスマートメーターの稼働状況の確認を継続して行うとともに、他市の状況の確認を行いました。(給水サービス課) 人工衛星データ、水道管路データ等を組み合わせて、AI解析により漏水リスクを評価する事業について、資料収集するとともに、導入した事業体へ視察を行い、導入に向けての準備を行いました。(水道課) 特殊人孔の更生工事において新たな技術を活用しました。(下水道課)
---

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
新たな技術に関する検討を行う(件/年)	6	6	5	4	1以上	5	↗	◎	新たな技術の導入についての検討を行った回数

評価理由

各課で積極的に検討を行っているため、評価を「S」としました。
--------------------------------

今後の方向性

インフラ技術は日々進歩しています。常に新技術にアンテナを張り、引き続き費用対効果を考慮しながらも積極的に先進的な技術の導入の検討を行います。
--

評価事業

総務企画課・財務課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	(1) 業務運営	4) 公有地や施設・設備の効率的利活用	A

具体的取組

① 上下水道局の公有地のうち、事業予定のない公有地について、利活用の可能性、利活用方法の検討を行う体制を確立し、経営的視点に基づき利活用方針（暫定的な利活用、貸付、売却）を決定します。	a
② 新たな利活用方法として、施設見学の拡充等を検討します。また、付加価値が期待できる施設がないかなど、より親しみやすい上下水道局を目指して、関係機関と調整を図りながら検討します。	a

取組実績

① 庁舎改修計画の策定について、経営会議で承認されました。なお、空調設備改修工事は、故障が多かったこともあり改修計画策定より先駆けて実施しました。 未利用地の売却について、一般競争入札を実施し、落札者と売買契約書を締結しました。 上下水道局来客用駐車場の利活用検討について検討し、有料時間貸駐車場事業者を公募型プロポーザルにより公募し、事業者が決定しました。
② 中福受水場の施設開放を行い、局に対する市民の親近感の創出を図りました。また、令和5年度に作成した霞ヶ関第二浄水場の紹介動画を出前講座等の際に活用することにより、施設の利活用を図りました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組を着実に進めているため、評価を「A」としました。公有地の利活用については、令和4年度に制定した「川越市上下水道局財産管理規程」に基づき、着実に取組を行っています。
--

今後の方向性

庁舎改修計画に基づき、上下水道局庁舎の改修を実施していきます。また、未利用地の2件については測量等を行い、売却を含めた利活用方法を検討します。なお、有料時間貸駐車場については、令和7年7月より運用開始を予定しています。 施設見学の拡充については、引き続きオンラインでの動画配信などについて関係課と協議を行い検討します。また、既存施設・設備の効果的な活用については他市の活用状況などを参考に検討していきます。
--

評価事業

総務企画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	(1) 業務運営	5) 人材の育成と組織力の強化	A

具体的取組

① 内部研修の充実や外部研修の積極的活用により、必要な知識や技術の習得を図り、職員全体の能力の向上に努めます。	a
---	---

取組実績

① 内部研修については、新任者研修を行いました。また、関係機関主催の外部研修を活用し、専門的な知識や技術の習得を図り、職員の能力及び資質の向上に努めました。
--

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
内部研修実施時間（時間 / 人）	3.5	4.6	5.6	5.8	3.0	5.8	↗	○	必要な知識や技術の習得を目指した、内部研修の実施時間数

評価理由

具体的取組を着実にしているため、評価を「A」としました。
------------------------------

今後の方向性

研修は人材育成に欠かせないものであるため、新任者研修の内容の充実を図るとともに、外部研修を積極的に活用し、知識や技術の習得、職員の能力向上に努めます。
---

評価事業

事業計画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	(2) 経営基盤の強化	1) アセットマネジメント	A

具体的取組

① アセットマネジメント（水道）及びストックマネジメント（下水道）を実施し、中長期的な視点による効率的な事業運営を図ります。	a
--	---

取組実績

① アセットマネジメントによる老朽管更新計画等を推進しました。（水道） ストックマネジメント計画を見直しました。また同計画に基づき、点検・調査を実施しました。（下水道）
---

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組を着実にしているため、評価を「A」としました。
------------------------------

今後の方向性

水道・下水道施設や管路・管きよの老朽化が進行していますが、厳しい財政状況のもと、継続的な施設の更新と維持管理を実現するためには、財源の確保が大きな課題となっています。引き続き、水道アセットマネジメントや令和6年度に見直した下水道ストックマネジメント計画に基づき、管路・管きよの重要度等を考慮しながら効率的な更新事業を進めます。
---

評価事業

総務企画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	(2) 経営基盤の強化	2) 経営戦略	A

具体的取組

① 水道事業、下水道事業の各事業について経営戦略を策定し、収支計画に基づいた進行管理や経営指標等を用いたモニタリングによる検証を行います。	a
② 経営戦略策定後、内容と実績に差が生じた場合は、見直しを検討します。	a

取組実績

① 令和5年度決算に基づき、経営戦略に掲げた事業計画の取組状況を検証するとともに経営状況の評価を行い、その報告書を作成しました。また経営審議会において報告を行いました。
② 経営戦略策定から5年目を迎えたことから、改めて上下水道事業の現状分析を行った上で投資・財政計画を見直し、令和7～16年度までの10年間を計画期間として改定を行いました。改定にあたっては、経営審議会に諮問し、意見を反映させながら実施しました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組を着実にしているため、評価を「A」としました。
------------------------------

今後の方向性

改定された川越市上下水道事業経営戦略に基づき、令和7年度も計画の進捗状況の確認と評価・検証を行います。
---

評価事業

事業計画課・下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	(2) 経営基盤の強化	3) 不明水対策	B

具体的取組

① 雨水排水の誤接続について、市ホームページや広報への掲載内容を充実させ、注意喚起を図ります。	a
② 宅内誤接続調査の強化を図り、改善に向けた指導の徹底を図ります。	a
③ 宅地内の排水設備完了検査後も、適切な排水設備となっているか継続して調査を行い、指導改善を図ります。	a
④ 不明水の流入状況調査により浸入原因の特定を行い、ストックマネジメント計画に基づく改築と併せて不明水の流入防止に向けて計画的な対策を実施します。	a

取組実績

① 市ホームページ、市広報、上下水道局だより、市役所本庁舎の電光掲示板への掲載のほか、市民センターへのチラシの設置や窓口での下水道への接続相談の際にPRを行いました。
②③ 令和6年度調査件数491戸中、誤接合のあった45戸に対して文書による切り離しの指導を行いました。また、平成26～令和5年度調査で誤接合のあった104戸について、文章による指導を実施した結果、6戸の解消が確認されました。
④ 不明水の流入状況調査として、水位計設置により不明水エリアの特定を進めました。また、既設管調査を行い、浸入水箇所を特定しました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
有収率（下水道）（％）	68.6	74.0	75.3	79.1	76.3	71.0	↗	×	汚水の処理量に対して、使用料の徴収対象となった水量（有収水量）の割合
	(計算式) 年間有収水量 / 汚水処理水量 × 100								

評価理由

不明水対策に向けた具体的取組を着実に進めていますが、指標が目標値を達成できなかったことから、評価を「B」としました。具体的な要因としては、集中豪雨や台風の影響で例年よりも降雨量が多かったことが挙げられます。
---

今後の方向性

誤接続については、引き続き宅内誤接合調査の強化を図り、改善に向けた指導の徹底を行います。 令和4年度に策定した「雨天時浸入水対策計画」を基に、効果的な手法を確立させ、計画的な調査及び不明水対策工事を実施します。
--

評価事業

総務企画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	(3) お客様とのコミュニケーションの推進	1) 積極的な情報伝達	A

具体的取組

① 新たな媒体の活用を検討し、幅広い情報をタイムリーに発信するよう努めます。	a
② 施設見学会や出前講座などにより、上下水道事業の情報提供、啓発活動を推進します。	a

取組実績

① 市公式ホームページやX（旧ツイッター）を活用し、事業や計画の進捗管理に係る情報のほか、被災地派遣の実施状況など、幅広い情報を発信しました。
② 中福受水場にて施設開放を行いました。ポスターコンクールについては、上下水道ともに入賞作品展を開催しました。また、川越市の水道水に関する研修会に講師として呼ばれた際に「施設紹介動画」の上映や、水質に関する実験等を行い、積極的な情報発信に努めました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考
情報提供、啓発活動の回数 (回/年)	4	6	6	13	13以上	13	↗	○	上下水道事業における情報提供、啓発活動の実施回数

評価理由

具体的取組を着実にしているため、評価を「A」としました。
------------------------------

今後の方向性

引き続き市ホームページやSNS等を有効活用し、タイムリーな情報発信に努めます。今後も情報提供や啓発活動の拡充について検討していきます。
---

評価事業

総務企画課・事業計画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	(3) お客様とのコミュニケーションの推進	2) お客様の意見・要望の把握と活用	A

具体的取組

① 各種イベント会場やホームページでアンケート調査を行い、お客様の意見・要望の把握に努めます。	a
② 情報管理やサービスの向上に向け、情報集約システムの整備等について検討します。	a

取組実績

① 中福受水場施設開放、水道週間ポスターコンクール入賞作品展の2つのイベント時に水道に関するアンケート調査を行いました。また、同アンケートをホームページに掲載し、電子申請によるアンケート調査も行いました。
② 上下水道施設管理システムの更新に伴い整備した、情報集約機能について、各課で活用できるよう登録内容の検討を行いました。

評価指標

指標名	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組を着実にしているため、評価を「A」としました。
------------------------------

今後の方向性

アンケート調査を継続し、そこから得た意見・要望を事業運営に活かしていきます。 上下水道施設管理システムの情報集約システムを活用し、様々な情報を一元管理することで、業務支援や市民サービスの向上を目指します。 また、次回のシステム更新に向けて、お客様サービス向上のための機能について検討します。
---